

# ね、この本よんだ？



2019年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した  
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた  
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても  
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



『おいせまいりわんころう』

あおきひろえ／文  
長谷川 義史／絵  
ブロンズ新社



わんころうは、大阪船場の米問屋「すごろくや」で暮らす犬です。だんなさんの健康祈願を娘のこいちゃんに頼まれて、伊勢神宮へ代わりにお参りに行くことになりました。はたして無事に参詣できるのか、珍道中のはじまりです。おいせまいりが盛んだった江戸時代、実際に犬の参詣もあったとか。お店の名前にちなんで、すごろく形式の楽しい絵本です。

『やねうらたんていモリー』

コマヤスカン／作  
くもん出版



やねうらに住むヤモリの探偵モリーの事務所に、一本の電話がかかってきた。やねうらの町で禁止されている“クモ、ガブリ!事件”が起きたという。モリーは娘のジュニアとともに現場に向かうことになるが、はたして犯人は見つかるのか。クールなヤモリ探偵親子の掛け合いとスカッとした結末が楽しい絵本です。

『ダム・キーパー』

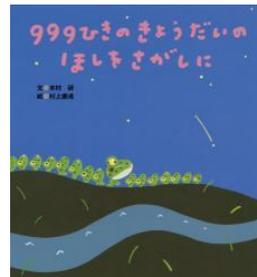
トンコハウス／ぶん  
KADOKAWA



谷あいの小さな町に住む少年ピッグは、ダムの外に広がる「くらやみ」から町を守るダム・キーパーとして、働いています。ダムの仕事で汚れ、みんなに馬鹿にされる毎日を送っていたある日、学校へ転校生の女の子フォックスがやってきました。天真爛漫な彼女との出会いが、ピッグの孤独な心を溶かしていく様子をキレイな絵と共に感じられる作品です。

『999ひきのきょうだいの ほしをさがしに』

木村 研／ぶん  
村上 康成／え  
ひさかたチャイルド



999ひきのかえるのきょうだいが、仲良くかくれんぼをしているうちに、一番星が空に光ります。たくさん出てきた星をみんなで見上げていると、小さな星がスーッと流れていきました。「あっ、星の弟が落ちた。」みんなで星の弟を助けに行きますが……。最後は素敵な夜空が広がります。999ひきのきょうだいシリーズ第5弾です。

『夏とおとうと』  
ふくだ いわお／さく  
光村教育図書



ある夏の日、お兄ちゃんはお母さんの言いつけで、しかたなく弟を連れて遊びに出かけます。幼い弟は何かと足手まといで思い通りに遊べません。「もっとはなれてついてこいよ」と言ったものの、虫取りに夢中になっていると、後ろにいるはずの弟がいなくなっていて……。夏の日差しの下、兄弟の日常の一コマを少ない言葉で描いた作品です。

『ギョギョギョつり』  
矢野 アケミ／作・絵  
鈴木出版



小さなイワシをえさにして、おじさんが釣りをしています。あれ、おじさんは待っている間にこっくり、こっくり居眠りをしています。あ！アジがやってきて、イワシをぱくっ！タイがやってきて、アジをぱくり！どんどん魚が釣れているけど、おじさんは眠ったまます。目覚めたおじさんは、みんなと力を合わせて引っ張ります。さて、なにが釣れるでしょう？

『だれのパンツ?』  
シゲリカツヒコ／作  
KADOKAWA



タロウがいつもの団地の前の公園で遊んでいると、空から大きなパンツが降ってきました。団地まで届けてあげようと思いますが、4階建ての最上階まで行っても持ち主はいません。すると、鳥が3つ上の階にそんな柄のパンツをはいたやつが住んでいると言い出して、タロウの不思議な冒険がはじまります。さて、パンツの持ち主は一体誰なのでしょう？

『ぼく、こわかったんだ』  
横須賀 香／ぶん・え  
BL出版



最近、死ぬってことを考えると、すっごくこわい。死んだら、目をとじたときみたいに、ずっとまっくらなのかな。「ぼくは死んだらどうなるの？」毎日不安でたまらない少年。ぼくは弱虫なのかな。ちよつとへんなのかな。そんな少年のもとに、ある日手紙が届いて……。だれもがもつ不安に、まっすぐ向き合った作品です。不安なのはきみだけじゃない、こわくていいんだよと伝えます。だれもが持つ不安な気持ちに温かく寄り添うおはなしです。

『ちびねこのチュチュと、スプーンのあかちゃん』  
二宮 由紀子／さく  
牧野 千穂／え  
岩崎書店



ちびねこのチュチュがピアノを弾いていると、トカゲのウルフレッドがやってきて、スプーンの家にも生まれた赤ちゃんを見に行こうと誘います。初めて見るスプーンの赤ちゃんに、チュチュは興味津々。抱っこさせてもらったり、赤ちゃんにとっての初仕事を一緒に体験したりと、ワクワクが止まらない一冊になっています。

『おおゆき』  
最上 一平／作  
加藤 休ミ／絵  
すずき出版



前日からたくさんの雪が降り続いた大みそかの朝、ゆうきたちの家の前の国道が大渋滞。「なんぎしているときは、おたがいさまだべ」おじいさんは「トイレあります」の看板を立て、村の人たちも公民館で、おにぎりやあったかいものにじるの炊き出しを始めます。みんなで力を合わせて困っている人に手を差し伸べる姿に、すがすがしさを覚える絵本です。

『おおにしせんせい』  
長谷川 義文／作  
講談社



「この廊下、えのぐそのままの茶色のいろか？」図画工作の時間に先生に言われたぼく。ろうかを触って廊下を感じる。廊下に耳をつけて廊下の音を聞く。鼻を近づけて廊下のにおいをかぐ。そしてじっと見た。さっきまでの廊下とは違って見えた。先生の一言でぼくの心が動いた。大切な先生との出会いを描く作者の自伝的絵本です。

『あめおじさん』  
にしい あきのり／さく・え  
文芸社



あめおじさんが外に出ると必ず雨が降ります。だから遠足に行きたい子どもたちや洗濯物を干したい奥さんたちは、あめおじさんに今日は外に出ないでとお願いに来ます。そんな事が続いたある日、一人の女の子があめおじさんのところにあるお願いにやってきました。第16回えほん大賞絵本部門大賞を受賞した、あたたかい気持ちになれる絵本です。

『おにいちゃんとぼく』

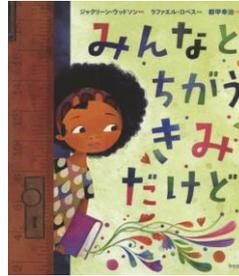
ローレンス・シメル／文  
フアン・カミーロ・マヨルガ／絵  
宇野和美／訳  
光村教育図書



うちのおにいちゃんってすごいんだ。まっくらな夜でも本が読めるし、すごく記憶力がいい。地下鉄の改札口までの階段の数も覚えてるんだよ。お話も上手で、冒険やアクションがいっぱいのわくわくするお話をつくってきかせてくれる。ぼくっていいでしょ。こんなおにいちゃんがいて。～目の見えないうちの兄とも、目の見える友達ともお互いに認め合う日常をやさしいタッチで描きます。

『みんなとちがうきみだけど』

ジャクリーン・ウッドソン／作  
ラファエル・ロペス／絵  
都甲 幸治／訳  
汐文社



教室にはいると、そこにいるみんながきみとはちがっています。きみは、世界の外側にずっとたったままにいるような、さみしい気持ちになるかもしれません。でも、それをかえるのはきみのすぐそばに立っている勇氣あるもうひとりのきみです。きみの居場所ができる日がくるように、きみが自分の話をはじめる日までそっと励ましてくれる新生活にぴったりの絵本です。

『オレ、なんにもしたくない』

デヴ・ペティ／ぶん  
マイク・ポルト／え  
こばやし けんたろう／やく  
マイクロマガジン社



カエルはしたいことがなーにもないだ。泳ぎに行ったり、遊んだり、考えても考えてもどれもいや。友達のウサギくんやネコくん、フクロウさんに聞いたけどすることが見つからない。ブタくんはすることの表を見せてくれるけど、その素晴らしさがよく分からない。なーにもしないまま1日が終わってしまうのかな？生意気でかわいいカエルの物語第3弾！

『おなかがすいたよ ジョーンズさん!』

リチャード・スキヤリー／さく  
木坂 涼／やく  
好学社



ジョーンズさんの農場は夕ご飯の時間。農場にいる馬や牛、羊やにわとり、ねこやいぬたちはお腹が空いたので、それぞれの鳴き声でジョーンズさん呼びます。ジョーンズさんは動物たちが大好きなご飯を持っていき。。農場にいる動物たちの鳴き声や、動物たちが大好きなご飯が登場します。親子で一緒に楽しめる一冊です。

『まっくろけ まっしろけ』

マックス・アマー／さく・え  
いけもとなおみ／やく  
潮出版社



けしごむくんはきれいずき。真っ白な紙が好き。えんぴつくんは楽しいことが好き。紙をまっくろにする。けしごむくんは、えんぴつくんが描いた線を消して、えんぴつくんを追い払おうとするけれど、えんぴつくんはそしらぬ顔で、似顔絵を描いたりぐるぐる渦巻きを描いたり…。正反対の二人、どうなるのかな？

『うちゅうじんはいない!?!』

ジョン・エイジー／作・絵  
久保 陽子／訳  
フレーベル館



地球からはるか遠い星まで、宇宙人に会うためにやってきた主人公。「ぼくが必ず見つけてみせる！」宇宙人へのおみやげのチョコレートケーキをもって、星の上を探し回ります。ところがあれあれ、宇宙人が見つからない！そのうえ宇宙船まで消えちゃった！はたしてチョコレートケーキは無事にわたせるのでしょうか。世界10か国で翻訳されたユーモアあふれる絵本です。

『かわにくまがおっこちた』

リチャード・T.モリス／著 レウイン・ファム／絵  
木坂 涼／訳  
岩崎書店



むかしむかしあるところに川が一本流れていました。ある日、古い木によじ登ったくまが川に落ちたのです。川のそばで生きているカエルやカメ、ビーバーなどの動物たちが集まってきて、川下りの冒険が始まります。みんなはどこにたどり着くのでしょうか？ どんどん流れが速くなる川のスピード感と動物たちの掛け合いも楽しめる1冊です。

『ライオンになるには』

エド・ヴィアー／さく  
きたむら さとし／やく  
BL出版



ライオンってどんないきもの？ 獐猛で恐ろしくなくちやいけくない？ でも、レオナルドは優しくアヒルのマリアンヌと一緒に詩を考えるのが好きなライオンだった。そんなレオナルドをほかのライオンは気に入らないとばかりに責め立てて、ライオンらしいとは何なのか考える…。自分の言葉で考えて、それを相手に伝える大切さを丁寧に描いた絵本。

『やぎのグッドウィン』

ドン・フリーマン／さく  
こみや ゆう／やく  
福音館書店



やぎのグッドウィンは、おいしいごみをくちやくちやくかむのが大好き！ところが、それが思いがけない騒動をおこしてしまいます。名作絵本『くまのコールテンくん』作者、ドン・フリーマンが、生前に出版を願ったのが、この作品です。実際に遭遇したやぎとの楽しいおもいでが、モチーフの絵本です。生き生きとしたやぎの躍動感を、楽しんでください。

『おおきなおおきな木みたい』

ブリッタ・テッケントラップ／作・絵  
木坂 涼／訳  
ひさかたチャイルド



友だちとケンカしたら、ふたりの間には見えないギザギザができて、その亀裂がどんどん大きくなっていく。でも、友だちと仲良しになったら、楽しいことがたくさんできて、ふたりの間にある木の幹は大きく成長していき…。穴の仕掛けを使って、「思いやり」や「わがまま」を表現し、子どもたちの心の揺れに優しく語りかける、心温まる一冊です。

『こなもんくえニヤイ！』

クリストファー・サイラス・ニール／作  
林 木林／訳  
光村教育図書



ねこなのにキャットフードが大きい。「ケッ、こなもん」と、おいしい食べ物探しにでかけます。でもカメが好きなミミズも、ゾウが食べている葉っぱも、ライオンが追いかけているシマウマも「ゲー」どれも食べられニヤイ！ねこはおいしいご飯にたどりつくでしょうか？ 詩人・絵本作家の林木林によるユーモアあふれる訳も楽しい1冊です。

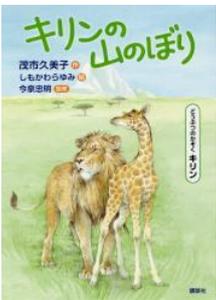
『ゆめみるどうぶつたち』

イザベル・シムレール／文・絵  
石津ちひろ／訳  
岩波書店



人間だけが、夢をみるのではありません。どうぶつたちも夢を見ます。その時間と状況は、じつにさまざまです。繊細なタッチと色使い。ページのすみずみまで堪能してください。きっと、不思議な夢の世界に引き込まれると思います。

『キリンの山のぼり』  
茂市 久美子／作  
しもかわら ゆみ／絵  
今泉 忠明／監修  
講談社



背が高くて遠くを見渡すことができるキリンは、群れで生活をする動物です。お母さんが赤ちゃんを産むときは、群れから離れてふたりだけで時間を過ごします。みんなと遠足に行ったときに、嵐が来て群れからはぐれてしまったキリンの子どもたち。大きなライオンに出会ってしまいますが、一体どうなるでしょう？キリンの生態を知ることできる1冊です。

『カイとティムよるのぼうけん』  
石井 睦美／作  
ささめや ゆき／絵  
アリス館



「きょうからぼく、ひとりでねるよ」6歳の誕生日を迎えて、堂々と宣言したカイくんですが、お母さんが部屋を出ていくなかなか眠ることができません。そんなカイくんのところへ、不思議な妖精、ティムが現れて「ひとりでねむれない子の手伝いをするように仰せつかった」と話してきたのです。カイくんとティムの、5日間の物語を、ささめやゆきさんの豊富なイラストと共にお届けする1冊です。

『徳治郎とぼく』  
花形 みつる／ぶん  
理論社



ボクのおじいちゃんの名前は徳治郎。おじいちゃんは頑固者で、一度決めたルーティーンは正月だろうがなんだろうが変えないし、他人からとやかく言われるのが大嫌いだった。そんなおじいちゃんの子どもの時代の話聞くうちに、ボクは子どものおじいちゃんが大好きになっていく…。祖父の死とすこしずつ向かい合う少年の心を丁寧に描いたおはなし。

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』  
緒川 さよ／さく  
久永 フミノ／え  
朝日学生新聞社



認知症になったおばあちゃんと、その現実を受け止めて成長していく小学5年生の辰子。辰年に生まれたのでおばあちゃんが辰子と命名しました。人生には、自分ではどうすることも出来ないことに遭遇する事があります。でも、どんな事実も受け入れた瞬間に、計り知れない力がでて、ひとは、成長するのです。朝日小学生新聞に連載され、大きな反響を呼びました。朝日学生新聞社児童文学賞第9回受賞作品。

『moja』  
吉田 桃子／著  
講談社



主人公の理沙は中学二年生。彼女の悩みは普通の人よりも毛深いことでした。服を着てしまえば分からないが、自分のコンプレックスを誰にも知られたくない理沙は将来が不安でなりません。他人にとってはたかが毛、しかし彼女にとってはされど毛。悩める乙女の明日はどうなってしまうのか？

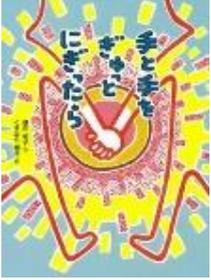
『トクベツな日』  
白矢 三恵／作  
PHP研究所



認知症のおばあちゃんと一緒に暮らすために転校してきた二葉。大好きなおばあちゃんの変ってしまった姿に思い悩みながらも、誰にも言えないでいた。悩みとは無縁に見える真緒や、達也、勝たちも、実はそれぞれ人に言えない悩みを抱えている。そんな4人の5年生が、行事をめぐってお互いに反発、葛藤しながら希望をつかんでいく姿を描きます。

『手と手をぎゅっとなぎったら』

横田 明子／作  
くすはら 順子／絵  
佼成出版社



虹川小学校4年生の主人公は、栗の木特別支援学校で交流授業をすることになりました。いったいどんな学校で、どんな子たちが通っているんだろう。特別支援学校の子もたちとの初めてのふれあいに、主人公は戸惑いながらも少しずつ心の距離を縮めていきます。著者自身が数年かけて支援学校に取材を重ね、描かれた作品です。

『ねこの町のホテル プチモンド』

小手鞠 るい／作  
くま あやこ／絵  
講談社



ねこの町にあるホテル「プチモンド」。ねこのジゼルさんはこのホテルで働く大勢の人たちをまとめる総支配人です。犬の村で一番腕のいい大工のハリソンさんに、別館の修理と改装を依頼します。完成した別館を一目見て、ジゼルさんはびっくり。ひいおばあちゃんが教えてくれたホテルの秘密を思い出します。さて、その秘密とは？完成した別館で開かれるパーティーも楽しんでください。

『みかん、好き?』

魚住 直子／著  
講談社



高校生の拓海の前に突然あらわれた、ちょっと変わった喋り方をする女の子・長谷川ひなた。彼女は拓海の祖父のつくるみかんに感動して東京からはるばるやってきたという。困惑する拓海をよそに、祖父とひなたはどんどん仲良くなっていき、一緒にみかんを育てることになったが…。瀬戸内海の島を舞台に、2人はみかん作りを通して少しずつ成長していく。

『だれも知らない小さな国』

佐藤 さとる／作  
村上 勉／絵  
講談社



小学校3年生のときだった。ぼくは見た。小川に流れていく赤いくつの中で、虫のようなものが動いているのを。小指ほどしかない小さな人たちが、手をふっているのを！  
1959年初版の名作が新イラスト版で登場です。コロボックルのひとたちが、どのような生活をしているのか、ワクワクする物語です。

『ハンカチともだち』

なかがわちひろ／作  
アリス館



ハンカチの中のこびとがむくりと起きあがり、歩きだした！はるちゃんはびっくり！それははるちゃんにとって特別なハンカチになります。大事にしておきたいはるちゃんは、その秘密のために友達との関係が悪くなってしまいます。そんなはるちゃんをミヨンちゃんが助けてくれますが、ミヨンちゃんにも秘密があったのです。ふんわりやさしい絵童話です。

『がっこうかっぱのおひっこし』

山本 悦子／作  
市居 みか／絵  
童心社



小学1年生のけい君は、友だちがいません。家ではお母さんに甘えたいけど、お母さんもお仕事で忙しくて、さびしいなあと感じています。けい君は休み時間になるといつも学校の池に一人で遊びに行くのですが、ある日、小さなかっぱが現れてけい君はびっくり！やさしいかっぱにそっと背中をおされ、けい君はあたらしい一歩を踏み出します。

『月の光を飲んだ少女』

ケリー・バーンヒル／著、

佐藤 見果夢／訳

評論社



年に一度、赤ん坊を生け贖に捧げなければならない町は悲しみに閉ざされていました。“森の悪い魔女は生け贖がないと町の人を皆殺しにする”と信じ込まされていたのです。しかし、善良な魔女ザンに助けられた赤ん坊のルナはうっかり月の光を飲んでしまう…。家族の在り方と、ルナの勇気に心を打たれる一冊です。

## テーマ本

### 『科学ってなあに?』

身近にあふれる“なぜ?”が“そうか!”に  
ジェームズ・ドイル／著 桑原 洋子／訳  
クレア・ゴープル／イラスト  
河出書房新社



どうして木は緑なの? 夢を見るのはどうして? どうして髪はのびるの? 身の回りの「なぜ?」が豊富な図版とともにわかりやすく解説された子供たちに人気の科学入門書。12ヶ国で翻訳されています。丁寧な語り口で質問に寄り添った解説は、作者と会話をしているようです。また、毎ページ質問が変わるので、どのページから開いて読んでも楽しい一冊です。

### 『じょうずな歯みがき』

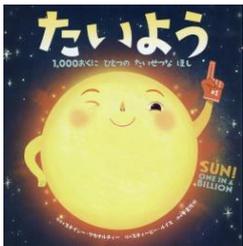
楠 章子／文  
ながおか えつこ／絵  
くもん出版



歯医者さんの検査で上手に歯を磨けていなかったことを知り、リこちゃんのがっかり。歯と歯の間に食べかすがあり、虫歯菌がいっぱいのおねばねばしたプラークが残っていたそうです。みんなは上手な歯みがきの仕方を知っていますか? 歯ブラシの持ち方やどんなふうにも歯を磨いたらいいか、歯のひみつが分かる1冊です。

### 『たいよう』

1,000おくにひとつのたいせつなほし  
ステイシー・マカナルティー／ぶん  
スティビー・ルイス／え  
小学館



ほく、たいようは きみにとって すごく たいせつな ほしだよ。そして、たった ひとりの きみは たいようにとって たいせつな なかまなのさ。たいよう本人が語る宇宙科学絵本です。毎日見ている太陽のひみつを、この絵本で学んでみませんか? 親しみやすい文と絵に引き込まれる作品です。

### 『すてねこたちに未来を』

小学4年生の保護ねこ活動  
菅 聖子／文  
汐文社



小学生にだって、救える命がある! ねこの保護活動をしている、小学4年生の少女。毎日、たくさんのねこたちのお母さんとして、お世話をしています。ねこの保護パトロール、譲渡会、お見合い、旅立ち一。たくさんの出会いと別れをくりかえし、すべてのねこが幸せになれるように、活動する日々をつづった心温まる物語です。

### 『ほうさんちゅう』

ちいさなふしぎな生きもののかたち  
かんちくたかこ／文  
アリス館



放散虫は、人の目には見えないほど小さく、不思議な生き物。深い海の中でぶかぶか漂って暮らしています。5億年前から現在まで生き続け、世界中の海のあらゆる場所にいますが、その形は一つではありません。とげとげだったり、つんつんしていたり。はちのすみたいに穴だらけもあれば、花のように咲いているものも。美しい形の放散虫を、電子顕微鏡を使って撮影した写真で紹介します。

### 『プラスチックプラネット』

今、プラスチックが地球をおおっている  
明日からプラスチックゴミをなくそう  
ジョージア・アムソン=ブラッドショー／作  
大山 泉／訳  
評論社



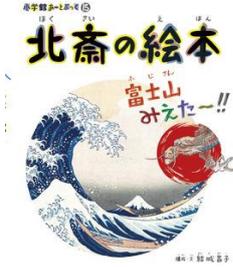
生活の中でなくてはならない存在になったプラスチック。とても便利な素材です。なんと世界中で1分間に買われるプラスチックボトルは100万本! だそう。しかし、その「分解しない」という特性が、地球環境を壊し、野生動物の命を奪い、私たちの健康にも影響を与えかねないのです。プラスチックゴミについて、私たちにできることを考えてみませんか。

『「もしも」のときに役に立つ！ 防災クッキング1  
電気・ガスが止まったときに役立つレシピ』  
今泉マユ子／著  
フレーベル館



災害時、ライフライン(電気・ガス)が止まったときでも作れるレシピを紹介しします。缶詰や乾物・ジュースを使ったおかずや、配給おにぎりのアレンジレシピ、スナック菓子をお湯で戻したポテトサラダから甘いおやつ作り方まで幅広く35品紹介。つらい時でも体と心の栄養がしっかりとれる楽しい料理が学べます。

『北斎の絵本 富士山みえた〜!!』  
葛飾 北斎／画  
結城 昌子／構成・文  
小学館



江戸のみんなのそばにいる富士山をいろいろな角度から描いた絵師がいる。江戸の本所に生まれ、幼い頃から絵の才能に恵まれた浮世絵師の葛飾北斎だ。代表作の「富嶽三十六景」は、大きな樽の間から見える富士山、雪をまとった富士山だけでなく、人々の暮らしの場面を描いた作品である。このほかにどんな浮世絵があるかは、読んでみてのおたのしみ！

『おしごと年鑑  
みつけよう、なりたい自分』  
谷 和樹／監修  
朝日新聞社／編  
朝日新聞社



スイッチを入れたら電気がついたり、定刻通りに電車が来たり、美味しいご飯が毎日食卓にならんだり。当たり前のように感じているかもしれないけれど、私たちの生活を守ってくれているたくさんの“働く人々”がいます。この本では120超の日本を代表する企業・団体が、素朴な疑問にこたえる形で、社会を支えるさまざまな仕事や人々を紹介しします。

『ビーナスとセリーナ テニスを変えた伝説の姉妹』  
リサ・ランサム／文 ジェイムズ・ランサム／絵  
松浦直美／訳  
西村書店



この本では、ウィリアムズ姉妹が、どのようにして世界に羽ばたくテニス選手になっていったかが、えがかれています。姉妹で「世界一のテニス選手になる」という夢を追いかけて、住む場所や人種のちがいが、ひどい言葉をあびせられたり、つらい思いをしながら乗り越えてきました。ドキドキしながら、二人の成長する姿を読み進めて下さい。心の中にあたたかいものがあふれてくると思います。

『いろがみえるのはどうして？』  
キャサリン・バー／作  
ユリヤ・グウィリム／絵  
千葉茂樹／訳  
小学館



色が見えるというのはどういうことなのか考えてみたことがありますか？色が見えるのは、光があるからです。光は何かにつつかると、跳ね返されたり、曲げられたり、吸い込まれたりする。するとそこに色が生まれるのです。他の生物も私たちと同じ世界が見えているのでしょうか？身近な不思議が科学の世界へと誘います。